

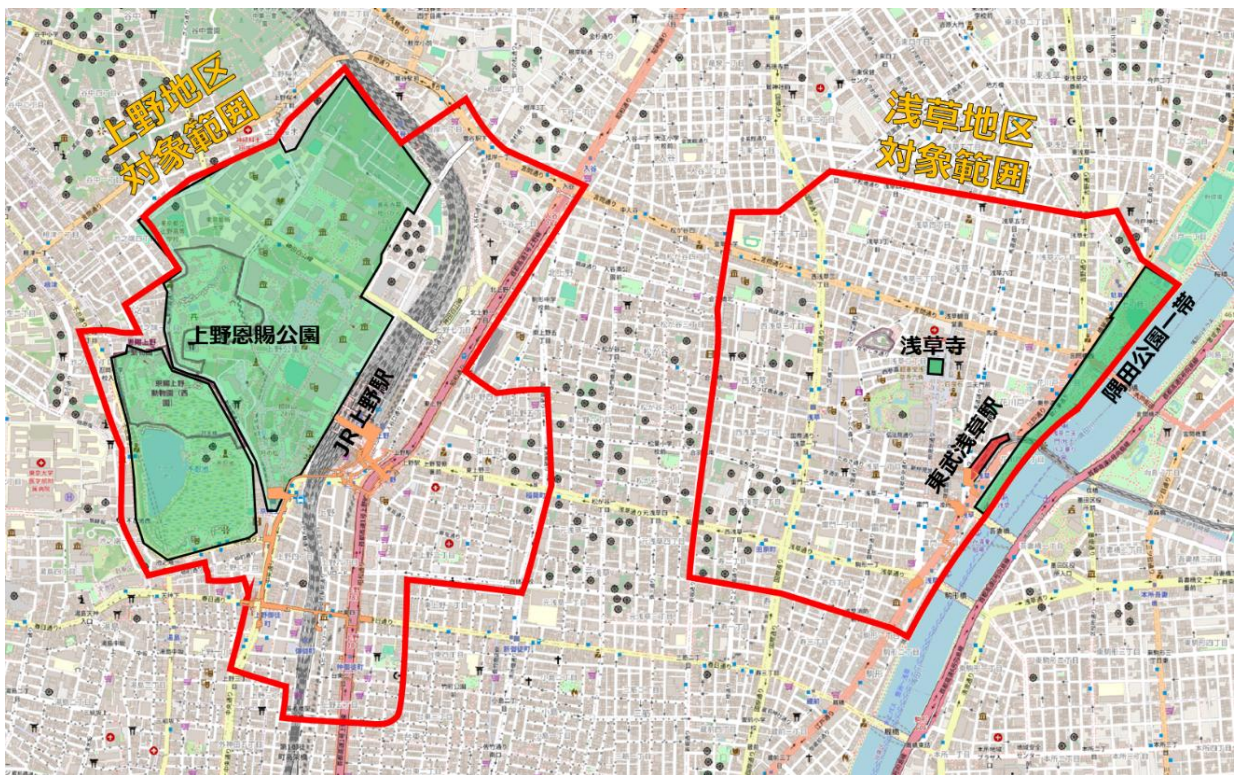
まちづくりDXの推進について

1 3D都市モデルの活用（避難シミュレーション）

(1) 概要

上野地区及び浅草地区における過年度整備した3D都市モデルに、GPSデータや実地計測調査等により推計した滞在人口を組み合わせ、解析ツールを使用して帰宅困難者※等の避難シミュレーションを実施した。なお、各地区において、現況と対策を講じた2パターンのシミュレーションを実施し、その解析結果の理解促進のため映像資料を作成した。

※ 帰宅困難者…観光客や就業者等の来街者を想定。



シミュレーション対象範囲(上野地区及び浅草地区)
緑範囲:避難場所

(2) シミュレーション結果及び対策

下記設定条件のもと、上野地区及び浅草地区ごとに滞留者を想定し、3D都市モデル上で、避難者一人ひとりが立体的な街の中を移動する形で、避難の流れをシミュレーションするとともに、それを踏まえた対策を検討した。

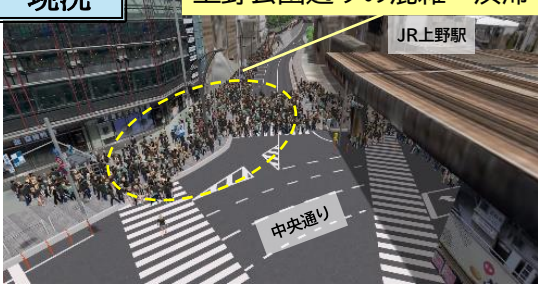
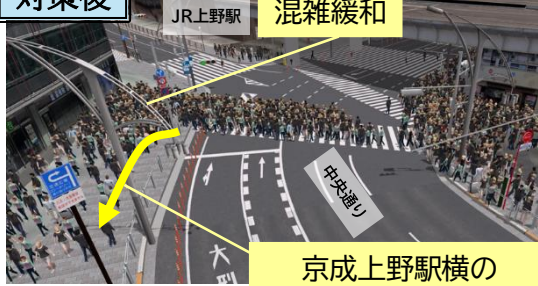
【各地区における主な設定条件】

- 対象範囲内に帰宅困難者等を配置
- 帰宅困難者等の数はパーソントリップ調査及びGPSデータ等より推計
- 帰宅困難者等に属性（性別、年齢、日本人または外国人の別、車いす・ベビーカーの利用状況、大きい荷物の有無等）を付与
- 冬季の平日昼間（天候：晴れ）に、鉄道・バス共に全線が運行停止になる災害発生を想定、火災の想定はなし

【シミュレーション結果】

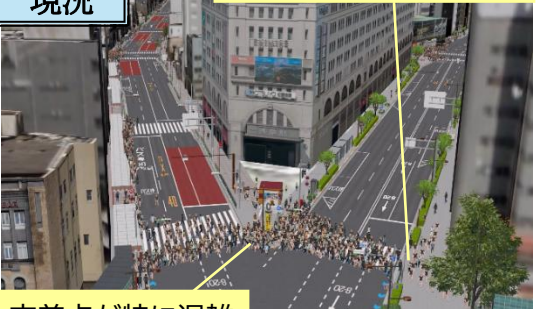

【上野地区】

- ・ 帰宅困難者は避難場所「上野恩賜公園」まで最短経路を選択し避難
- ⇒ 対策：誘導員の避難ルートの誘導指示による分散移動など

現況	上野公園通りの混雑・渋滞	対策後	JR上野駅 混雑緩和
			
シミュレーション映像キャプチャ(上野地区)		京成上野駅横の公園入口方面への誘導	

【浅草地区】

- ・ 帰宅困難者は避難場所「隅田公園」まで最短経路を選択し避難
- ⇒ 対策：観光案内板等による避難場所（浅草寺を含める）の情報提供

現況	隅田公園への入口渋滞	対策後	江戸通り沿いに分散移動
			
交差点が特に混雑		交差点の混雑が緩和	
シミュレーション映像キャプチャ(浅草地区)			

(3) 3D都市モデルを活用した映像資料による効果

危機・災害対策課が実施している以下の会議において、作成した映像資料を活用することで、参加者に対する解析結果の理解の浸透を図った。

会議名	実施日	参加人数
上野駅周辺滞留者対策推進協議会	令和7年12月	45名
	令和8年3月	45名
浅草地区帰宅困難者対策推進協議会（企画部会）	令和7年10月	28名
	令和8年2月	33名

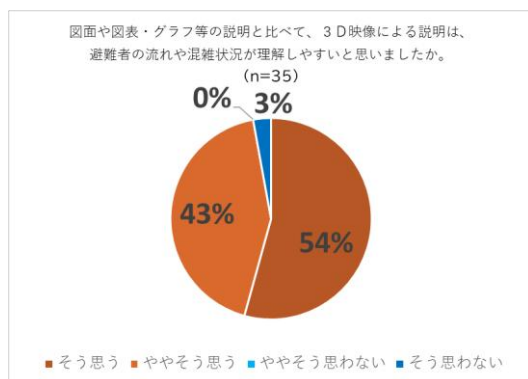
※各会議の主な参加者：町会、商店会、鉄道事業者、関係行政機関など



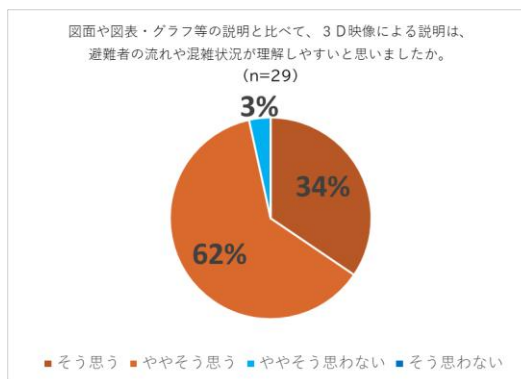
上野駅周辺滞留者対策推進協議会(R8.3)



浅草地区帰宅困難者対策推進協議会 企画部会(R8.2)



上野駅周辺滞留者対策推進協議会(R8.3)
アンケート結果



浅草地区帰宅困難者対策推進協議会 企画部会(R8.2)
アンケート結果

【アンケートにおける主な自由意見】

- ・想定される危機感・規模感が視覚的に感じられてとても良いと思う。
- ・具体的にわかりやすい。
- ・今後、どんどん活用されていくとよいと思う。

2 今後の方向性

上記会議等を踏まえ、危機・災害対策課による各計画検討での活用を進めるほか、様々なデータやデジタル技術を活用した都市政策を着実に推進していく。

3 今後の予定

令和9年第1回定例会 まちづくりDXの推進状況について報告